



「よいよい未来の創造」

「情熱」「絆」「感動」

発行 令和5年7月20日
「己に厳しく 人に優しく」
波佐見町立波佐見中学校
校長 酒井 一男

教育週間

7月1日(土)から7月7日(金)までの1週間、長崎っ子の心を見つめる教育週間を実施しました。7月1日にPTA学年レクリエーションを、3日に校長講話を、6日に道徳の公開授業と学年PTAを、7日に生徒会総会を実施しました。ご来校・ご協力いただきました保護者の皆様、誠にありがとうございました。

1 PTA学年レクリエーション(2、3年生)

2年生は、体育センターでドッチビーを楽しみました。途中からソフトバレーボールのボールも投入される特別ルールで大変盛り上がりました。親子対決では、日頃運動しているからか、子どもたちに軍配が上がりました。

3年生は、体育館でカブラ(KAPLA)体験をしました。カブラとはフランス生まれの木製ブロックで、世知原少年自然の家の3名の方が講師として、協力しながら高く積む競争をしたり、ナイアガラの滝をつくったりしました。

2 校長講話

校長講話では、教育週間が始まった経緯と継続している背景(2003年・2004年・2014年の小中高校生による事件を含む)について説明した後に、いじめ(いじめの定義、いじめ対策、いじめ防止等)について考えてもらいました。そして、この教育週間を通じて、命の大切さや命を輝かせて生きることについて改めて考えてほしいと話しました。

3 道徳公開授業

3年生は、「命を尊ぶ心」をテーマに、動画『愛しているよ、カズ』を視聴し、命について深く考えました。

2年生は、「自己を見つめる」をテーマに設定し、『自分って何だろう』を題材に、命を輝かせて生きることについて考えを深めました。

1年生は、「つながる命」をテーマに設定し、『ゆうへー生きていてくれてありがとうー』を題材に、人とつながっている自分の命について考えを深めました。



終業式

7月20日(木)に終業式を実施しました。1年1組の旭ゆずさん、2年1組の山川大駕さん、3年1組の佐々木ゆきさんの3名が学年代表として、整美委員長の山下拓海さんが生徒会から、1学期を振り返って成果や課題について話をしてくれました。校長からは1学期を振り返り、部活動や生徒会活動、総合的な学習の時間の成果について伝え、更なる高みを目指し、夏休み中に次の3つを心がけてほしいと話しました。

- ・中学生は自分自身や自分と周りの人との違いについて理解を深める時期である。通知表の「生活状況の記録」や担任のアドバイス、自らの振り返りをもとに、改めて自分自身を見つめ直し、その反省を2学期以降に生かすとともに、長所を生かす方法を考えてほしい。
- ・夏休みは自分のペースで自分なりの学習ができる。通知表の「学習の記録」をもとに、1学期の学習を振り返り、更に自分を伸ばすためや、弱点を克服するための学習に取り組んでほしい。特に3年生は、この夏の学習が人生を左右すると言っても過言ではない。主体的で計画的な学習に取り組んでほしい。
- ・早寝、早起き、朝ごはんを心がけ、規則正しく健康で安全な生活を送ってほしい。特に、メディアの使用に関しては、メディアの弊害を正しく理解し、自分をコントロールできる力を身に付けよう。

そして、これら3つのことの基礎となる「自己理解・自己管理能力」を、中学生の時期に必ず伸ばしましょうと話しました。